

A FACTORY OF LIVING AESTHETICS

芸術は、美術館や劇場だけにあるものでしょうか。
私は、芸術というのは生活の中にこそ
生き続けているのではないかと、と思っています。
どんな芸術も、芸術家の生活のなかの喜びや楽しみや悩みから生まれます。
そうならば、私たちの日々の生活が芸術文化を継承しているといえるのではないのでしょうか。

たとえば一度、今の生活から離れ海を越え、ひとり遠いところへ旅行に行きます。
突然思い出される、何気ない会話や、家族や友人の表情にたまらなく懐かしくなることがあります。
あるいは、それらが愛情あふれた美しい情景として、心の中に浮かび上がります。
もし、旅行したりしなければ気が付かなかったであろう自分たちの生活のなかの美しさです。
これを自覚的に捉え直し考えることが必要なのではないのでしょうか。

Location

生活の上流

敷地は、東西に流れる安濃川と美濃川のちょうど合流する所に位置する工業地域で、下流には伊勢市市街地が広がります。国道114号の敷地西側を南北に走り、敷地内にはJRと近畿鉄道の線路が南北に縦断します。敷地南北にも安濃川。美濃川もはさんで敷地が広がります。周辺地域からは、安濃川を挟んで対り敷地が建ち並ぶことができます。



Introduction

アーツ・アンド・クラフツ運動

生活は常に社会の慣習と結びついてきます。かつてイギリスでは産業革命がもたらした機械化、工業化、都市化によって労働者は機械に隷属し、生活の質がひどく悪化していました。それに対してJ・ラスキンやW・モリスはアーツ・アンド・クラフツ運動を起こしました。

生活の芸術化による社会進歩

モリスは「生活の芸術化による社会進歩」を提唱し、労働の過程に芸術的な要素が入り込む必要性を述べた。モリスにとって芸術と産業を統合することは二つの意味を持っていました。「労働の過程に人間らしい自由な創造という要素が入ってくる。」ということ。「消費生活にも芸術的な要素を導入して、生活の芸術化につながる。」ということ。そうならば、消費者は一般、芸術的な製品や建築物が都市空間を豊かにする。この考えが生産者を動かして、より芸術的な製品や建築物を生産する方向に社会が向かってゆく。そして、それが社会の原動力になるとモリスは考えていました。

モリス商会

アーツ・アンド・クラフツ運動において最も重要な役割を果たしたのがモリス商会でした。モリスらは彼ら独自の美術工芸家のコミュニティとしてモリス商会を設立しました。彼らはともに家具や壁紙や織物など、生活に最も近く、生活を豊かにするだけでなく、基本的な生活芸術を製作し続けました。

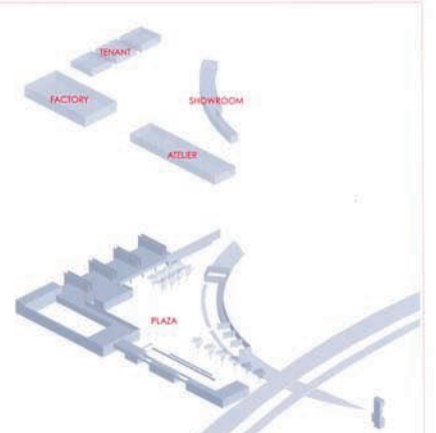
Concept

敷地は工業地域ですが、川を挟む住宅地帯が広がり、敷地もよく見渡すことのできる公園などもあることから、周辺住民の生活の一部として積極的に関わります。
生活美学工務所は、広場（PLAZA）を中心とし、生活芸術に由来した公園です。つづいて創作活動を行ったり創作現場を開放し、展覧に行われるイベントにも対応できます。

生活のなかの工務所

生活美学工務所には常設の建築、インテリア、家具、グラフィック、つまりモリス商会同様、生活芸術作家の共用のアトリエ、工場があります。彼らは莫大の協力を得られ、ともに創作活動を行います。また、地域のあらゆる企業や芸術家との相互作用促進のため、モックアップの製作のための作業場やデザインのためのアトリエも提供します。

諸芸術の会合所



広場を中心に、電灯や橋や廊下、樹木などのランドスケープと一体となって、地面から立ち上がるコンクリートの壁でとり囲みます。囲まれた広場に面するように開放的な空間がとりつきます。

「A FACTORY OF LIVING AESTHETICS」 400708 大家 雅広

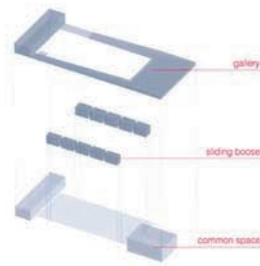
Factory

ファクトリー棟は様々な人の交流の場所となる。来客は作業風景を見学することができ、外部の個人工芸家や企業には作業場を提供する。休日や夜間などには積極的にイベントを行う。



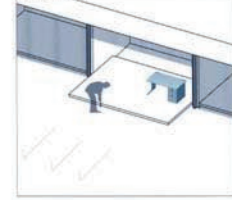
Section model.

LAYER CONCEPT



共用フロア・スライド式ブース・ギャラリー作業空間の両面を見学路が通み、その下にスライド式のブースが入る。

SLIDING BOOTH



スライディングブースは作業時のみ引き出して使用する。作業時にはブースは収納されているため広い空間を確保できる。扉裏に行われるイベントに対応できる。各ブースが個別に使用できるため、外部の個人や企業の使用にも対応することができる。

STEEL MESH SHUTTER



スチールメッシュの巻き上げはイベント時などにイベントスペースに美しく連続する。また、このとき収納されたブースの機能などが活かされてくる。ブースの内側から照明を当てれば照明スペースとしての使用も可能となる。

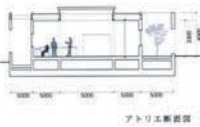
Atelier

アトリエ棟での作業はデスクワークが中心である。アトリエ内では多分野のデザイナーが作業を行う。彼らの相互作用を重視した。会議室や暗室の他、共用のリビングがある。



Section model.

CROSS SECTION



アトリエ断面図 S=1:150

OFFICE LAYOUT



各部門の間を共用デスク、共用廊でつなぐ。机のやりとりが機能的に行われる。プラザにはこの打ち合わせなどが行われる共有空間が設ける。

STEEL MESH WALL



プラザに対して機能的なオフィスと、プライベートなリビング、トイン、ブースの間をこのスチールメッシュの壁で区切る。風を通し、日光の遮射を調整、視線は締められていく。

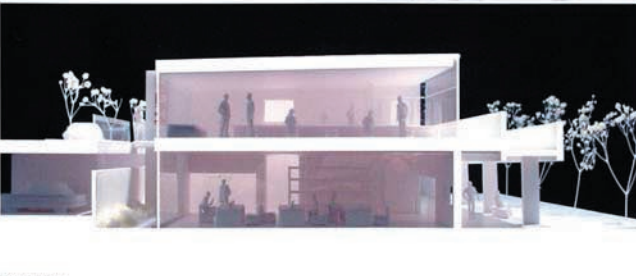
HEIGHT



ファクトリー棟の異なるフロアから視線を定める視線や、川を見渡すことが出来るように、アトリエ棟の高さは抑えられている。建物の高さを変えた代わりに、建物の変化に合わせ床を高くして、天井の高さを高くする。この建物の変化は、建物を美しく見て道路が綺麗になるために必要だったのである。

Tenant

テナント棟は上層はロードサイドショップ、一方下層は落ち着いた雰囲気でも事務所用などのために貸し出される。レストランについては、キッチンが下層に設け、上層は開放的なホールとなっている。



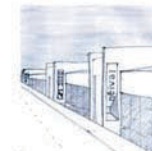
Section model.

PLAN SECTION



道路側からでもプラザを鑑賞できるように、なるべく視線が抜けるように配慮した。客の動線も東西に抜ける。視線を遮るようなものはなるべくなくしている。高い壁は立せず、壁の高さを低く抑えている。手すりも同様である。また、屋根もプラザへの抜けを考慮した形状となっている。

SIGNBOARD



各テナントの屋根を支え分割している壁の間は、屋根がかわってしまわずに抜けの壁となっている。これにより、下層で光が漏れ、西側にはハイペースを考慮しては階段を含んでいる。上下層のテナントの所有者が別々である。この壁を取り込むことで、視線を向けたままでも対応できる。道路側に突出したボリュームには屋根が傾斜し、上層、客の層への抜けを妨げることはない。

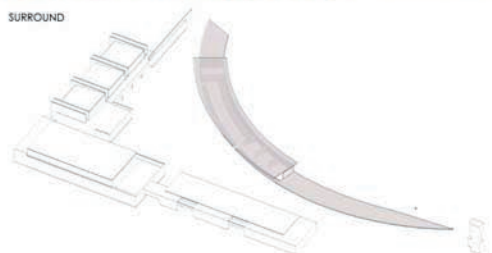
TERRACE



レストランの前にはテラスが広がる。テラスではプラザを見下ろして食事を楽しむことが出来る。

Linking Arc

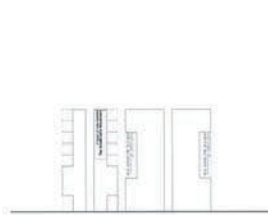
LINKING ARCはギャラリー、ショールーム、休憩所、机木からなる。敷地北側を囲みながらも、PLAZAから敷地先端へと誘導する。



LINK ARCは他の全ての機能に対して面を向けるようにして建つ。また、PLAZAに対する面を確保する。ショールームとギャラリーでの大きく張り出した庇はこのためである。

Tower

敷地先端に位置する塔は広告塔と展望台としての機能を持つ。アトリエ内のグラフィックデザイナーによるイベントの広告が掲げられる。

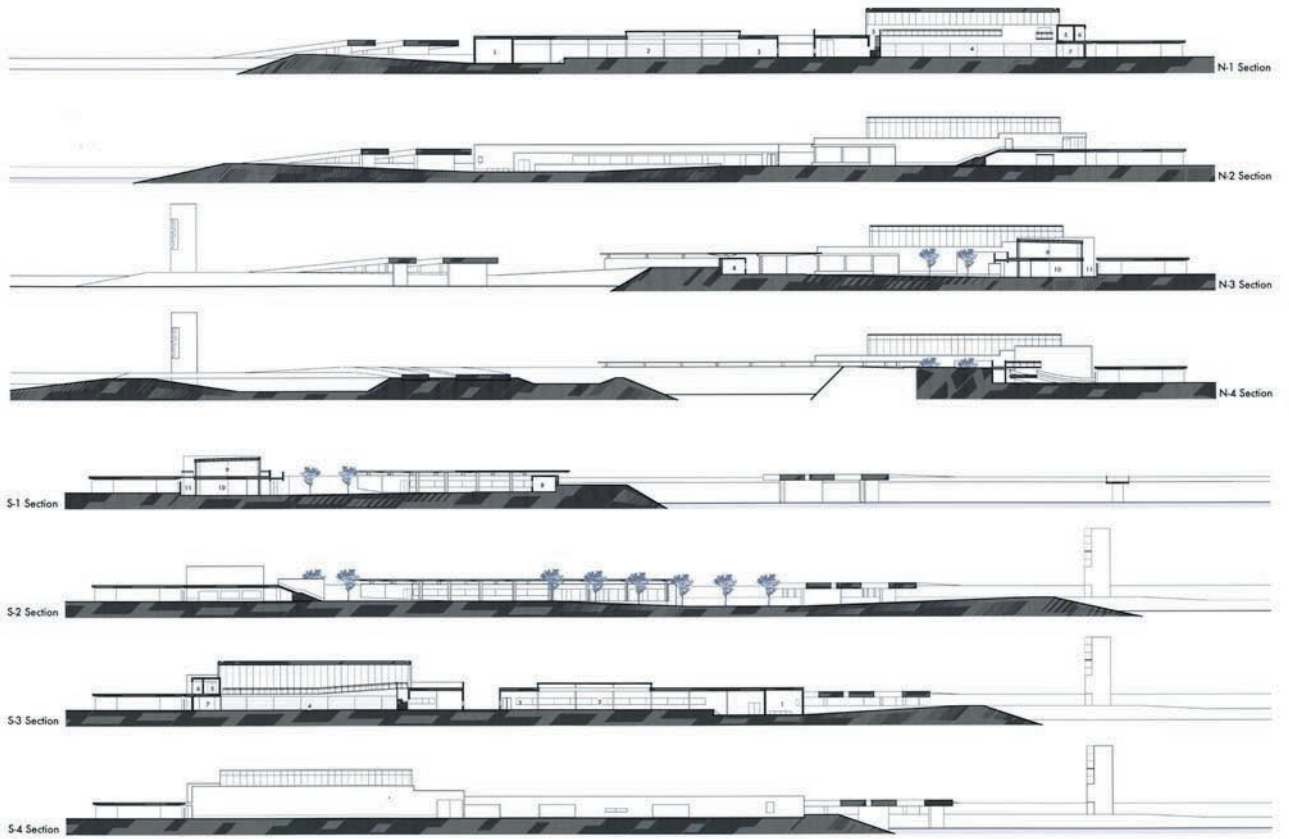


ELEVATION 1:200 北から南、西、北、東側立面図



塔の形態は、両面への眺望や広告の方向によって決定される。川の下流への方向と、橋を越えたPLAZAへの方向がちょうど135°に決まっている。このことから両方の眺望の確保を必要に応じて45°に必要とした方向を決定した。下層は橋周辺の広告に向けて、中層部はPLAZAに向けて、そして上層部は川の下流に向けられる。

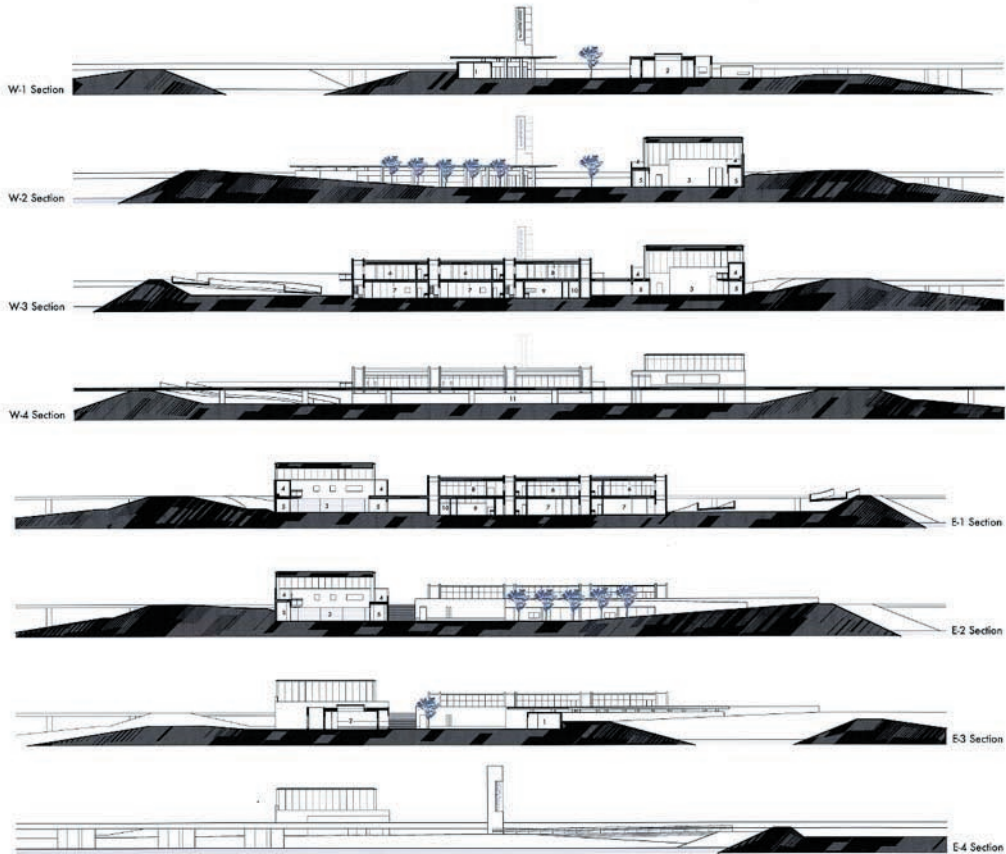
Section 1:300



1.店舗棟 2.エントリエ 3.受付 4.作業スペース 5.見学ギャラリー 6.ショーケース 7.展示室兼倉庫 8.ショールーム 9.商業テナント 10.事務所テナント 11.プラントエリア 12.ショールーム

A Factory of Living Aesthetics / 400708 Masahiro Oie

Section 1:300



1.展示ギャラリー 2.エントリエ 3.作業棟 4.見学ギャラリー 5.スライド式ブース 6.商業テナント 7.事務所テナント 8.レストラン 9.キッチン 10.倉庫棟

A Factory of Living Aesthetics / 400708 Masahiro Oie